

**西脇多可新ごみ処理施設整備基本計画（素案）に対していただいたご意見の概要と  
西脇多可行政事務組合の考え方**

1 募集期間：令和4年3月22日 ～ 令和4年4月21日

2 提出件数：8件（4名）

3 主な意見とその対応

(1) 意見を反映したもの(0件)

(2) 既に盛り込み済みのもの(3件)

ページ	項目等	意見等の概要	件数	意見等への考え方
2  39～55	第1章 「3基本 方針」  第6章 環境保 全計画	地元住民の方が、安全で安心した生活が過ごせるような設備・施設になるようお願いします。	1	新ごみ処理施設は、排ガス等の排出基準を県内同規模施設で最も厳しい自主規制値に設定して整備、維持管理を行い、地元住民の方が安全で安心して生活ができるよう計画しています。
2  56～61	第1章 「3基本 方針」  第7章 啓発施 設	処理施設に頼りきるのではなく、基本方針にもある新施設と共に循環型社会の形成と発展をさせ、子ども達が健やかに育ち、学べる環境づくりを切に願います。	1	新ごみ処理施設は、循環型社会の形成に寄与できるよう、再利用、再資源化を図る施設として整備します。 また、ごみの減量やリサイクルの推進についての啓発、環境教育・環境学習の場として、情報提供及び地域活動の形成を目的とした機能を有するよう計画しています。
30～36	第5章 エネル ギー利 用計画	・設備の環境対策について 今後において設置される施設なので、廃棄物の浄化や処理対策は十分にされていると思いますが、ただ浄化処理するだけの施設でなく、生活に役に立つ施設にしてもらいたい。廃熱利用や温水活用の施設を作るのではなく、発電した電力や廃熱を利用して、水素発生処理をすれば、備蓄可能な資源としての活用ができるでしょう。ただ、焼却炉のみの発電では安定化しない電力は、翠明湖でのソーラーや山上の風力をも利用して、水素発生を安定化させて、地域資源にする必要があるでしょう。	1	新ごみ処理施設は、ごみの燃焼で発生する熱エネルギーを回収して利用する計画としています。 利用方法は、発電利用と温水利用を検討しています。 発電利用の場合は、温水利用と比較し、整備費用や維持管理費用が高額になります。また、新ごみ処理施設は、焼却能力が1日当たり約52tと規模が小さいため、発電量も多くありません。 以上のことから、焼却時に発生する熱エネルギーは、施設内での有効利用を優先しつつ施設外へ温水を供給できるよう計画しています。 また、ご意見をいただいている水素の資源活用については、現時点において、様々な研究が行われている

			<p>ようですが、水素社会の実現には、技術、コスト、制度、インフラ等、まだまだ課題が多いのが実情のようです。</p> <p>なお、新ごみ処理施設では、施設外への温水供給を計画していることから水素の資源活用は困難と考えます。</p>
--	--	--	---

(3) 反映困難なもの(0件)

(4) 今後の参考とするもの(1件)

ページ	項目等	意見等の概要	件数	意見等への考え方
—	—	<p>・処理場建設について</p> <p>様々な生活様式を整えるには、生活ごみの終末処理は必要であり、その処理場を設置するのは必要なことであります。施設の使用期間を30年と見ても、その間に人口減少は否めません。それゆえ、施設の利用方法は十分な検討が必要です。また、その収集方法には上勝町ほどではなくても工夫の余地があります。中でも不燃物は、その原材料の複合化により、処理も複雑になりますが、貴重な金属も含まれるため、十分な分別を目指すべきです。</p>	1	<p>ご意見のとおり、将来的な人口減少は避けることができない状況にあり、これに伴い長期的にみてごみの発生量も減少することになりますので、運転管理方法について十分な検討を行います。</p> <p>また、現施設のみどり園の管内では、回収ボックスを設置して使用済みの小型家電の回収を行っており、有用金属等のリサイクルの促進に努めています。</p> <p>新ごみ処理施設では、ごみの分別方法の変更は行わない計画ですが、分別の徹底を推進する必要があることから、西脇市、多可町とともに更なる啓発を行います。また、将来的には新たな分別についても検討する必要があると考えます。</p>

(5) その他(4件)

ページ	項目等	意見等の概要	件数	意見等への考え方
—	—	<p>今までの施設ではダイオキシン問題や、廃材の大きさを理由に火事跡の廃材の受け入れを拒否されていました。</p> <p>結果、過失のない被害者が高額な処分費を支払い処理業者に委託されています。</p> <p>新処理施設は、火事や台風等の被害にあわれた方の大型廃材の受け入れ可能な施設の建設を望みます。</p>	1	<p>現在の焼却施設では、焼却炉の構造上、分別及び一定の細断をさせていただく必要はありますが、災害ごみの受け入れを行っており、新ごみ処理施設でも引き続き災害ごみの受け入れを行います。</p> <p>なお、新ごみ処理施設においても、施設規模が小さいことから、引き続き分別と一定の細断の必要があることをご理解いただきますようお願いいたします。</p>

-	-	<p>ストーカ式を採用するのであれば、火力エネルギーを少しでも抑えられるよう、また、家庭ゴミの排出量を減らせるゴミの分別に市民で取り組めないかと考えます。</p> <p>近隣では丹波市がコンポストの取り組みを始めています。自身は福岡県福岡市にあるローカルフードサイクリングのコンポストを使用しています。</p> <p>資料記載の生ゴミ排出量と同様、いかに生ゴミが家庭ゴミの割合を占めているかが大変よく分かります。毎日のゴミの量と悪臭が減る上、生ゴミは良い土へと還ります。市でもコンポストの取り組みについて掲載されていますが、精力的な取り組みとは見受けられません。</p>	<p>ご意見のとおり、家庭から出されるゴミの分別及び減量の取組は、大変重要であると考えています。</p> <p>特に、家庭から出るゴミに占める割合が高い生ごみは、水切りをするだけでもゴミの減量につながるほか、可燃ごみの焼却に当たっての燃焼効率がよくなるなど、施設の運転にも有効な手段であると考えています。</p> <p>1 一方で、生ごみの活用方法であるコンポストについては、西脇市で行った段ボールコンポストモニター調査では、手間や臭いなど、その普及には課題も多いと聞いています。</p> <p>コンポストの取組も含め、家庭でできるゴミの減量に向けた取組を推進し、循環型社会の形成に向け、西脇市、多可町とともに普及啓発に努めます。</p>
-	-	<p>環境に十分配慮がなされたとしても、新施設を建設することで元来の自然を失う事になります。人々にとっての便利さ、快適さに比例し、自然環境にも良い市町づくりを。</p>	<p>1 新ゴミ処理施設の建設に当たっては、植栽による緑化など、周辺の景観と調和がとれる整備に努めます。</p>
-	-	<p>・魅力ある施設について</p> <p>安定的で備蓄可能な水素発生と、安定電力はほかの施設の誘致に役立つ。それは電子データの備蓄倉庫（データバンク）である。多可町南部は、岩盤質の大地にあり。崩落の少ない岩盤質は、堅牢な施設の建設には欠かせない。台風が頭上を通過してもほとんど影響もない地域は、他に類を見ない好適地でしょう。また、兵庫県、日本の中心地にあり、高速道路網の隣接地にある多可町南部は、まさに複合施設には最適地でしょう。これからの自動運転などの情報過多の時代に、電子備蓄倉庫は全国的に欠かせない施設で、高圧電力ラインや電子情報ラインがあり、近畿の災害備蓄倉庫にも近く、大都市からの距離も適度な位置にあるこの地は、災害対策にも十分です。</p>	<p>1 新ゴミ処理施設は、災害に対して耐久力のある施設になるよう計画しています。</p> <p>新ゴミ処理施設で発生する熱エネルギーを利用する産業の誘致については、多可町とともに検討を進めます。</p>